

あぐり 最前線



土壌分析をしましょう！

「コスト低減に向けて」

JAでは、肥料の過剰施肥による無駄をなくし「コスト低減」に繋げるため、土壌分析を毎月実施しています。分析を希望される方は、約1合程度200gを採土し、必ず土壌を乾燥させてから袋に入れ、住所・氏名・TELと、水稲野菜（キャベツ、ハクサイ、等）・果樹（ミカン、カキ、等）など品目名を記入して、9月20日（金）までに各支店へご持参ください。分析結果は10月中旬頃に連絡致します。

市場出荷休日カレンダー （野菜・果樹）

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16 敬老の日	17	18	19	20	21
22	23 秋分の日	24	25	26	27	28
29	30					

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14 体育の日	15	16	17	18	19
20	21 秋分の日	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

×は出荷できない日 は日曜・祝日等

※防除薬剤のあとの数字は、安全使用基準で、**（収穫何日前まで使用可能か／通算使用可能回数）**を表しています。農薬は農薬安全使用基準を守り、正しく適期に防除してください。

例）表記が（14日／2回）の場合：収穫14日前までに2回使用可能

水 稲

良質米に仕上げて

いよいよ極早生品種から収穫を迎えます。JAの栽培ごみでは、6月5日田植えで左記を収穫予定日としていますが、生育状況を見て適期刈り取りを励行してください。

（6月5日田植えの場合）

- ※キヌヒカリ▽9月7日～13日
- ※きぬむすめ▽9月20日～30日
- ※ヒノヒカリ▽9月25日～10月5日
- ※にこまる▽9月28日～10月8日
- 登熟期
- ・登熟中期は、デンプンの蓄積が盛んな時期なので、間断かんがいを行い可

能な限り落水時期を遅らせましょう。

・登熟期に高温が続くと白未熟粒が発生し、品質が低下してしまいます。

ポイント

- ①早期に落水すると、登熟不良により胴割粒、未熟粒などが増加して外観品質が低下するとともに、玄米中のタンパク質含有率が高まり食味も低下します。コンバイン収穫に支障がない範囲で落水時期を遅らせましょう。また、遅めの落水は高温年における白未熟粒の発生などの高温障害を抑えられます。
- ②落水の目安は収穫の5～10日前で、水田の乾湿、降雨状況を加味して加減してください。

●収穫

- ・高品質良食味の生産には適期収穫が不可欠です。
- ・早刈りは、青米や未熟粒の増加や収量低下の原因となります。逆に、刈り遅れは、着色粒や胴割粒が増加して品質低下を招きます。また、倒伏を助長し、収穫作業に支障をきたします。

①収穫適期は、黄化した籾割合が85～90％程度になった頃を目安とします。

②多肥栽培では、茎葉や穂軸は青くても籾は成熟している場合があります。やせ地などでは、茎葉や穂軸が黄化しても籾は熟していない場合があります。茎葉の色だけで収穫適期を判断せず、籾の黄化具合で判断しましょう。

●調整

- 玄米水分は14・5％
- 収穫後、できるだけ早く（4時間以内）通風してください。また、急激な乾燥は避けてください。
- 高温、急激な乾燥は胴割米の原因となります。
- よい調整で良質米に仕上げましょう

- 乾燥直後の籾すりは肌ずれ米や胴割米になりやすいので、温度が下がってから始めましょう。肌ずれ米は、保管期間が長くなればカビなどの発生につながります。
- 籾・異物などの混入に注意しましょう
- 量目適正（30・5kg）確保

決まった量目を必ず入れましょう。

保管中に水分が蒸発しますので、量目に十分注意しましょう。1％の水分減で30kgあたり約300gの減量となります。

◎出荷7日前までには防除記録簿をJAへ提出してください。

＊保有米以外は全量出荷をお願いします。

＊種籾は定期的に更新し、品質の低下を防ぎましょう。

●収穫後の作業

- ①稲わらの処理
大雨で流れ出さないよう、早めにすき込むか積み込みましょう。
- ＊コンバインで裁断された稲わらは、しっかりと土にすき込み、十分に腐らせることで土壌中の腐植が増加し、地力の増進が図られます。
- ②縞葉枯病対策
越冬害虫のヒメトビウンカが保毒するウイルスが原因で発病します。次年度の発生を抑えるためにも早めに耕起を行い、密度を下げましょう。

キャベツ・ハクサイ ブロッコリー



●育苗

▽播種後
日焼け防止のため寒冷紗などで被覆し、プラグトレイの7割程度が発芽した頃に除去します。除去が遅れると苗が徒長し、軟弱になるので注意してください。

灌水

本葉が出るまでは控えめにしましょう。過度の灌水は、苗を徒長させるため注意してください。プラグ育苗の場合、トレイの端が乾きやすいので注意してください。

液肥

播種10日頃から生育を見ながら、液肥を100倍で施用してください。

●病害虫防除

- ◎ハイマダラノメイガ
- ▽播種時 ※キャベツ・ブロッコリー
- ・プリンス（粒）20～30g／箱（播種時1回）

▽育苗時 ※ハクサイ

・プリンス（フ）200倍（21日／2回）

▽育苗期後半～定植時

◎アオムシ・コナガ・ヨトウムシ

・ペリマークSCC 400倍（0.5ℓ灌注／箱）（1回）

＊効果を高めるため、前日までに施用することをお勧めします。

▽定植前日～当日

◎根こぶ病

・ランマン（フ）500倍（2ℓ灌注／箱）（1回）

箱（1回）

●定植

苗の大きさが、本葉3～4枚の頃が定植適期です。老化苗は、活着が悪く生育不良の原因となるため注意してください。

※キャベツ・ブロッコリー
25～30日苗を定植します。

※ハクサイ
18～20日苗（若苗）での定植を心掛けてください。

●施肥

やむを得ず老化苗を定植した場合や活着不良の場合は、定植3～4日後に、千代田472（40kg／10a）を植筋に施用し、初期生育を促しましょう。

レタス



●播種

プラグトレイに与作N15を土詰めし播種したあと、バーミキュライトなどで覆い、灌水してください。

発芽までは一定の温度を保ち、発芽後は寒冷紗などで日よけを行います。育苗期間中に降雨がある場合は、トンネルなどで被覆し、できるだけ雨がからないようにしましょう。

●定植

本葉3～4枚の苗を、根鉢を崩さないように浅植えにします。苗には植え付け前日に、十分に灌水をしておく根鉢を崩すことなく定植ができます。

育苗日数が長くなり、根巻きしている

場合は根をほぐして定植しましょう。ただし、老化苗を植えると活着が遅れ、よい玉の収穫が望めないため注意が必要です。

●除草

定植直前に10aあたり、トレイファンサイド（乳）200～300mlを水100ℓに溶かし、土壌表面に散布します。

ダイコン



●作型

青首ダイコンでは、年内収穫、年明け収穫がありますが、いずれの作型でも若どりが大切です。適期収穫に努めてください。

●施肥

施肥、とりわけ追肥は分けて施用するほど、若々しいダイコンになります。

●病害虫防除

◎黒斑細菌病
黒斑細菌病は、土中で1年以上生きています。土が第1次伝染病源となつて、土壌と空気から伝染します。高温多雨の年に多発するので予防散布に重点を置いてください。なお、発病は肥料切れや風雨・霜により生じた傷口から感染します。

▽10月上旬

・カセット（水）1000倍（14日／3回）

▽10月中旬 ※年内どり品種

・マイコシールド 750～1000倍（14日／3回）

◎テッポウ虫（キスジノミハムシ）

ダイコンの根部に小さな穴を開ける害

虫です。この虫は、幼虫になって土の深いところで越冬し、7～8月に土中で蛹になり、10日程度で蛾になります。この蛾がダイコンの株元に卵を生み、卵は10日～3週間てふ化し食害します。

▽播種時

・フォース（粒）6～9kg／10a（全面土壌混和）

耕種的防除では、有機と名のつく肥料の追肥は絶対に施用しないでください。

◎白さび病（ワツカ症）

多発園ではチッソ肥料を減らすとともに、土壌消毒および

・ダコニール1000 1000倍（45日／3回）

または

・ランマン（フ）2000倍（3日／3回）

を間引き直後に1回目、その10日後に2回目、その10日後に3回目の散布をしましょう。このとき地際部まで濡れるように「たつぷり」と散布することが大切です。

青ネギ



●定植

畝幅120～130cmに4条植えにします。苗を15cmぐらいに切りつめ、株間12～15cmごとに1カ所につき8～13本で植え付けます。定植後は、浅植えにするとともに十分灌水を行い、活着を促しましょう。

●病害虫防除

▽定植前日～定植時

◎スリップス・ネギハモグリバエ

・スタークル（顆）50倍（0.5ℓ灌注／箱）（1回）

2020年度 和歌山県農林大学校

農学部学生・林業研修部研修生募集

和歌山県農林大学校では、農林業に活力を与え、農林業に新たな価値を創造するとともに、将来の和歌山県の農林業を振興するリーダーとして活躍できる人材の育成のため実習に重きをおき実践力を身につける教育を行っています。

2020年度農学部学生・林業研修部研修生の募集を下記のとおり行います。

農学部(専修学校) 2年制	【募集定員】	園芸学科	定員 30名
		アグリビジネス学科	定員 10名
林業研修部 1年制 ※専修学校ではありません。	【募集定員】	林業研修部	定員 10名
		林業経営コース	定員 10名

	農学部		林業研修部
	推薦入学試験 (定員：募集人員の7割)	一般入学試験	選考試験
試験日	2019年10月8日(火) 午前10時～	2019年12月10日(火) 午前10時～	2019年11月9日(土) 午前10時～
試験場所	農林大学校 農学部		農林大学校 林業研修部
合格発表	2019年10月10日(木) 午前10時以降	2019年12月12日(木) 午前10時以降	2019年11月13日(水) 午前10時以降
願書受付期間	2019年9月17日(火) ～2019年9月30日(月)	2019年11月19日(火) ～2019年12月2日(月)	2019年10月15日(火) ～2019年10月29日(火)
受験資格	2020年3月までに高等学校を卒業見込みの者	高等学校卒業、または2020年3月までに高等学校を卒業見込みの者	
お問い合わせ先	和歌山県農林大学校 農学部 〒649-7112 伊都郡かつらぎ町中飯降422 TEL：0736-22-2203 FAX：0736-22-7402		和歌山県農林大学校 林業研修部 〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1504-1 TEL：0739-47-4141 FAX：0739-47-4150

和歌山県農林大学校
就農支援センターからの
お知らせ

技術修得研修(第2班)

対象	県内での就農を考えており、基礎的な知識や技術から就農に必要な実践力までを身につけたい方【定員8名】
研修日時	令和元年10月～令和2年2月までの毎月連続する平日5日間で計25日 9：00～16：00 ※10月7日～11日、11月11日～15日、12月9日～13日、1月20日～24日、2月3日～7日
申込方法	受講申込書に必要事項をご記入の上、就農支援センターに郵送・FAX・Eメールのいずれかでお申し込みください。 ※受講申込書は就農支援センターまたはセンターHPで入手可能です。
締切	9月9日(月)必着 面接日：9月18日(水)(就農支援センター)

詳しくは、和歌山県農林大学校就農支援センターまでお問い合わせください。

〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724 TEL：0738-23-3488 FAX：0738-23-3489

Eメール：e0716011@pref.wakayama.lg.jp

URL：https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/071601/sintyakujouhou/index.html

研修生募集のご案内

モモ

9～10月は貯蔵養分を蓄える時期です。土作りにより、樹体の維持・向上に努めましょう。

●土作り

- ・完熟堆肥(200kg/10a)
- または
- ・新ふりかけ堆肥eco(200kg/10a)
- ・苦土セルカフミン(120kg/10a)*各年

●夏期剪定

秋季に樹体内養分を蓄積する前に、不要な立ち枝や徒長枝を切除することで樹勢を落ち着かせる効果があります。また、側枝への日当たりがよくなり花芽や葉芽が充実します。ただし、樹勢の弱い樹では、ますます樹勢を弱らせることになるため控えてください。

●病害虫防除

◎コスカシバ

幼虫が幹や枝の樹皮を食害する害虫です。加害された樹は、樹勢が弱まり枯死する場合もあります。薬剤散布は、樹幹部および主枝に丁寧に散布しましょう。

イチジク



引き続き適期収穫に努めましょう。

●収穫

収穫は果実温の上がらない早朝に行い、熟度を確かめながら果実のつけ根の

部分を持って丁寧に収穫してください。また、雨の日の収穫果実はカビや傷みの発生が多くなるため、注意して選果選別しましょう。

適熟果の目安は、果実の重みで下重し、耳たぶくらいの硬さの果実です。

●わき芽かき

わき芽が伸びすぎると下部の果実が影になり、着色不良となるため、わき芽が伸びる前に取り除きましょう。

●灌水

樹勢維持のため、土壌の乾き具合を見ながら灌水を行ってください。ただし、一度に多くの灌水をすると、裂果や糖度低下の原因となるため、晴天が続く場合は3日間隔で10aあたり300ℓを目安に灌水を実施しましょう。

●病害虫防除

◎さび病

・アンビル(フ) 1000倍(前日/2回)

◎ハダニ類

・ラリー(水) 2000倍(前日/4回)

◎ニッソラン(水)

2000倍(前日/2回)

◎バロック(フ)

2000倍(前日/1回)

◎アザミウマ類

・スカウト(フ) 2000倍(前日/3回)

または

・ディアナWDG 5000倍(前日/2回)

カキ



9月に入ると早生の着色期に入ります。9月中旬にシルバーマルチを敷設しましょう。

●刀根早生の摘葉

収穫10～15日前より果実にかぶさるような葉を3枚程度摘み取り着色向上に努めてください。

●平核無・富有

小玉・傷果などの見直し摘果と摘葉を行いましう。

●病害虫防除

▽9月下旬 ※富有柿

◎カメムシ類

・スタークル(顆) 2000倍(前日/3回)

◎うどんこ病・炭そ病

・スコア(顆) 3000倍(前日/3回)

台風や秋雨で降雨が続いた場合、炭そ病の発生が多くなります。炭そ病は、はじめに黒い斑点が現れ、しだいに病斑が拡大して指で押したように少しくぼんだ直径1cmくらいの大きさになります。発病した果実は落下しやすく、成熟間際の果実では早く着色するのが特徴です。気象に注意して薬剤散布しましょう。

みかん



極早生の収穫が始まります。

●樹上選果

極早生の中でも早熟系統の品種の収穫

が9月下旬から始まります。収穫前に、品質の劣る日焼け果や傷果を取り除きましょう。また、減酸が極めて早く進みますので、適期収穫に努めてください。

●仕上げ摘果

早生・中晩生種については、品質の仕上げ期になりますので、仕上げ摘果や低品質果実を取り除きましょう。

●病害虫防除

◎ミカンハダニ・ミカンサビダニ

・チャノホコリダニ

▽9月中旬まで

・ダニゲッター(フ) 2000倍(前日/1回)

◎浮皮軽減対策

秋季の高温や多雨は、浮皮の発生を助長します。園内が多湿にならないよう風通しをよくすると共に、バイカルティ1000倍(3回以内)を防除の際に加用しましょう。

◎ミカンサビダニ

・サルファゾル 400倍(随時)

◎貯蔵病害

・トップジンM(水) 2000倍(前日/5回)

または

・ベフラン(液) 25 2000倍(前日/3回)

*収穫1週間前に散布することで予防効果を高めることができます。

*ベフランは、多湿園では着色ムラを生じることがあるため使用しないでください。